

日本中小企業学会東部部会の第1回研究報告会として、山本聡理事（東洋大学）企画による「学際領域としての中小企業研究の新たな展開と方法論」が開催され、活発な議論が展開されました。

- 日時：2024年1月21日（日）13:00～15:00
- 開催場所：東洋大学白山キャンパス 1号館1301教室
- 参加人数 25名

■ 研究報告

報告者：株式会社タカハシ 高橋弘明氏

槇野産業株式会社 槇野雄平氏

日興エポナイト製造所 遠藤智久氏

東洋大学 経営学部教授 山本聡氏

テーマ：「中小企業経営者のネットワークとレジリエンス：経営者の語りを用いた物語分析」

報告概要：

はじめに、山本理事から今回の開催趣旨と研究報告の説明がなされた上で、「事業承継者は社会的ネットワーク（弱い紐帯）をどのように能動的に構築しているのか」「事業承継者は当該社会的ネットワークから、どのような資源を獲得しているのか」という二つのリサーチクエストが示された。そのうえで、東京都の著名な中小企業ネットワークである「下町サミット」を事例研究対象とすることが説明された。

続いて、下町サミットのコア・メンバーである高橋弘明氏（タカハシ：荒川区）、槇野雄平氏（槇野産業：葛飾区）、遠藤智久氏（日興エポナイト：荒川区）から、「下町サミットはなぜ、生まれたのか？」「事業承継者はなぜ、下町サミットに参画したのか？」「経営者はなぜ、下町サミットを続けるのか？」について、それぞれ報告がなされた。

最後に、山本理事から、中小企業経営者が、ネットワークをどのようにレジリエンスに結び付けているのか、「情熱的調和」などをキーワードとした解釈が研究報告された。

会場からは、異業種で集まることと、同業種で集まることの違いと限界、メンバー選びの工夫、不適切なメンバーへの対応などについて、質疑応答がなされた。



以上